

これだけは避けよう

新築 SHOCK

家族全員で一生懸命に考えた我が家が引き渡されたとき、右のような姿であったらどうしますか？設計図の立面図通りの建物が敷地にポツンと建っています。奥行き感、立体感もなく平べったい建物がまるで裸むきだしの様に。

これが数カ月後には、こだわった建物のデザインと全く関係しないブロック塀などの“洋服”を着されてしまうのでしょうか。日本の新築住宅市場ではこの様な情景が非常に多く存在しています。

憧れのが家を建てる時、どうしてもリビング、キッチン、バス、収納、インテリアなどの話題に集中してしまいます。これは、実際に暮らす家族にとってとても重要なことです。しかし、家は建物だけではないことを十分に覚えておく必要があります。建物の外まわりもしっかり建物と同じタイミングで考えなければ本当に快適な暮らしをむかえることは非常に難しくなります。

新築を考えるときは、必ず建物と、家の外まわりまでをしっかりと考えて、上手な予算配分とコーディネートを考える必要があります。

これが「**新築SHOCK**」から逃れる方法です。



これだけは覚えておこう

新築 SHOCK 対策講座

カッコいいデザインは
そのまま!

引っ越したその日から
快適な暮らし!

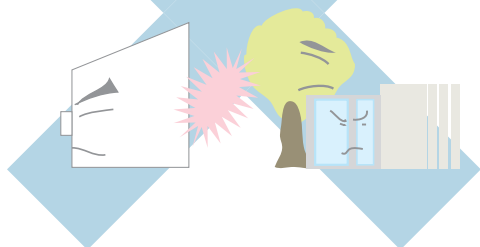
ファサード思考

建物と外構造園で一つの顔づくりを

ファサードとは、建築の正面外観を意味します。通常、道路側から見えることが多く、いわゆる「顔」となる家づくりにおいて重要な部分になります。建物の外観デザインと、門扉、フェンス、カーポート、塀、ブロック、植栽などの組み合わせによる「顔」づくりをじっくり考えることが大切です。

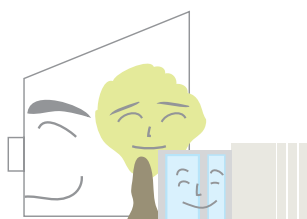
建物・外構造 分離型

新築は建物のみと考えることが多く、外構や造園は後から付いてくるという意識が強い傾向にありました。そのため、新築に入居してもしばらくの間は道路からハダカの状態、玄関や窓から室内が見えてしまうということがありました。また、後から付く外構や造園の部分は建物とは関係の薄いデザインが組み合わせられ、一体としてのデザインを気にすることが少なかったのです。



建物・外構造 一体型

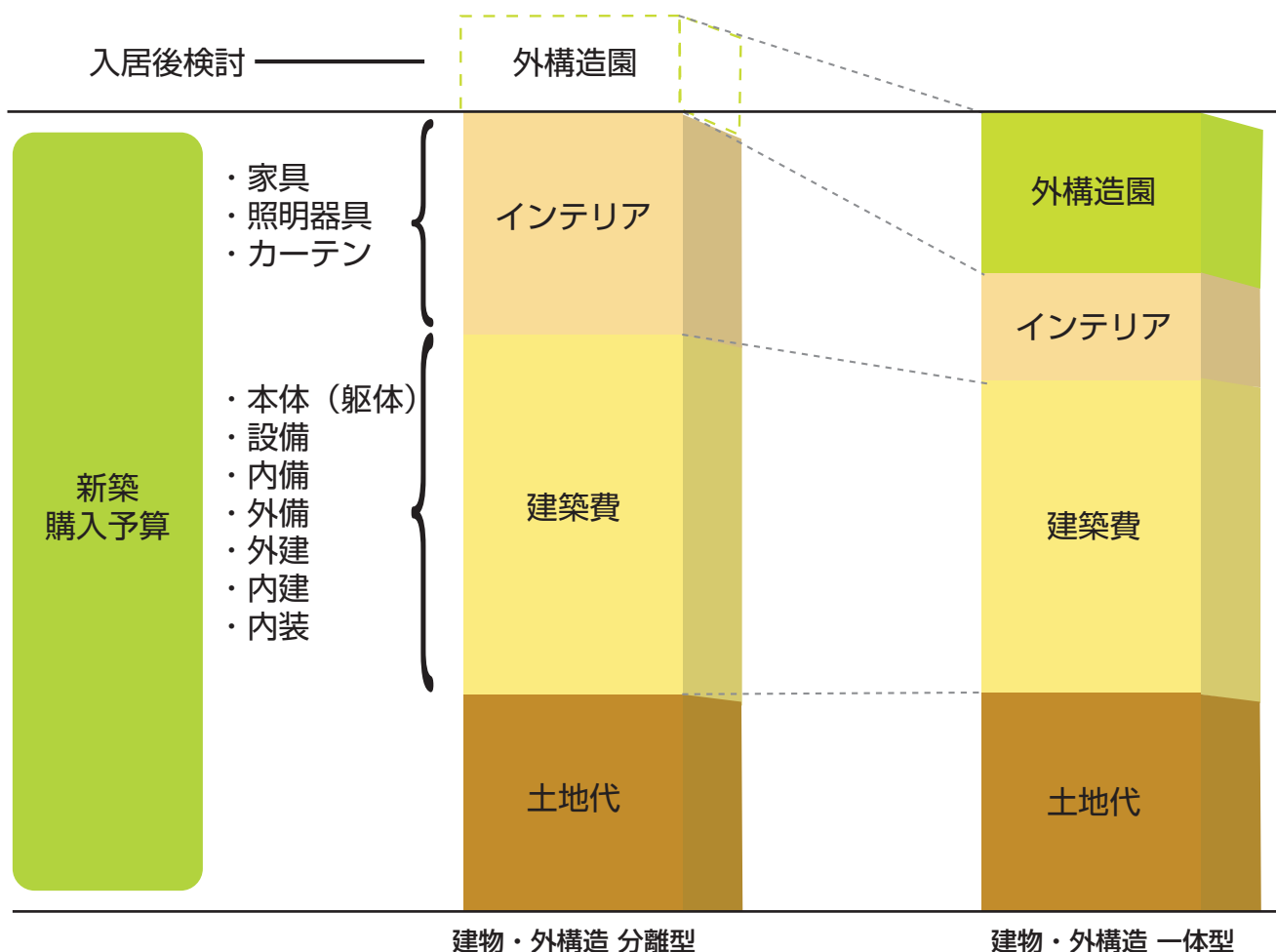
新築を考えると、建物の「顔」となるファサードを重要と考え、全体予算を上手に配分して設計プランを考えます。建物の外観意匠にふさわしいデザインと機能をもった外構造園計画をあらかじめ考えておくことで、新築に入居したその日から、快適な暮らしを始めることができます。



予算配分

限界予算の範囲で敷地全体設計を

新築の設計プランを考えるとき、建物へ100%投資する考え方から生活を快適に送るための環境作りとして敷地内に必要な内容までを考えて予算配分することが大切です。



建物に予算が集中。そのため
 -家の外廻りは更に追加予算が必要
 -後工事により全体のデザインが崩れる
 -後工事が終わるまで快適な暮らしは難しい



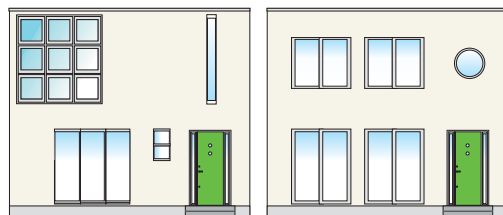
敷地全体で予算を配分。そのため
 -入居時から快適な暮らし
 -追加予算なし

誰も教えてくれなかった

住宅の「顔」づくり方法

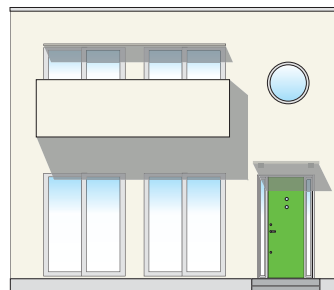
窓の整理

- ・窓の種類を一つ又は2つに絞ります。
(引違い、はり出し、上げ下げ、ワイドスライディングなど)
- ・窓の大きさ(幅・高さ)を揃えます。
 - ー2階と1階で同じ位置に付く窓は同じ幅にする
 - ー水平方向の並ぶ窓を同じ高さにする
- ・窓の配置を整理します。
 - ー1階と2階は同じ列に配置
 - ー建物全体でシンメトリー(左右対称)にする
 - ーシンメトリーにならない場合は窓のまとまりをつくり、
その中でシンメトリーをつくる(窓ひさしやバルコニーを使う)



陰影をつける

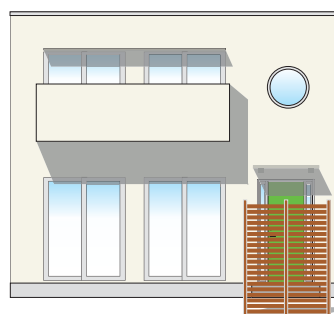
- ・窓の上に影をつくります。
 - ーセットバックウインドウを使う
 - ー窓ひさし、バルコニーで二つ以上の窓をくくと同時に
陰をつくり、まとまりと彫りの深さを表現する
- ・玄関ドア周りに陰をつくります。
 - ー凹状に玄関ドアをプランニングする
 - ー玄関ひさしをシャープに付ける



プライバシーの保護

玄関ドア前、リビング・ダイニング前のプライバシーを配慮し
ほどよく隠します。

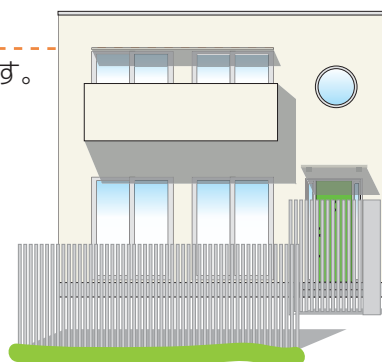
- ー玄関ドアの前に何もしないとドアを開けたときに室内が
道路から見えてしまいます。リレーリア、スクリーン、門袖、
フェンス、アクセントポール、生垣などで防犯を配慮して
程よく隠す工夫が必要です。



奥行き感・立体感の演出

建物面から道路境界線までの奥行き感、立体感を配慮、工夫をします。
何もないと建物も生活も外からそのまま見えてしまいます。
建物と道路境界線までの間に垣わりをたてることで奥行き感、
立体感がでます。

- ー門袖やアクセントポール、リレーリアスクリーン、生垣などを
2面ほど出入りを変える配置が必要です。
この時、平面上の水平、垂直グリッドを
考慮することも大切です。



玄関ドア選びの 때가 **ラスト・チャンス**

新築の設計プランを考える中でも、玄関選びの時は数多く決めることがある中で建主が選べる楽しい部分です。そのタイミングで、玄関を開けたときに見えるアプローチまわりを一緒に考えるのがベストタイミングと考えられます。その時は駐車スペースまでしっかりと考え建物のデザインとバランスが図れるファサードとして考えていきましょう。

5 一体感の演出

形状を合わせて仲間作りを行ない、敷地全体で一体感を演出します。

- 葉の柄をモチーフの装飾を散りばめる
(オーナメント、壁飾り、フラワーハンガー、門扉、ポスト)
- グリッド柄のモチーフの装飾やフェンス、門扉で統一する
(門扉、フェンス、窓、壁飾り、オーナメント)
- バブル柄のモチーフの装飾やフェンス、門扉で統一する。
(門扉、オーナメント、壁飾り、窓、フラワーハンガー)
- たて基調で繊細なリズムをつくる
(アクセントポール、リレーリアスクリーン2型、アネーロ、壁飾り)
- 横基調で伸びやかな水平ラインをつくる
(リレーリアスクリーン、ハンドレール、壁飾りなど)

6 素材の整理

ファサードをつくる上でいろいろな素材が多すぎると上手にまとめることができませんので、使用する素材をコンパクトに整理する事が大切です。

- 金属素材で揃える(プラチナステン色ベースのアルミ、鋳物)
- 木調素材で揃える(CA、QK、SA、XQカラーのアルミラミネート、リウッド)
- 吹付け素材で広い面積部分を統一し、その上に装飾を施す

上記を1種で統一するとコンパクトにまとまり、2-3種類で組み合わせるとお洒落になります。

7 色の配色

使用する色は、敷地全体で1~3色に絞ることでまとまりをつくります。

- 玄関ドアの色を基本カラーとして他の部分(ポストのアクセント、壁飾り、フラワーハンガー、門扉、フェンス、門袖・バルコニーの吹付け)に展開したり散りばめます

8 樹木の活用

樹木を配置すると建物の見栄え、情景がよくなります。(立体感、色彩、陰影、ライン、やわらかさ)

- 株立ちが美しいシンボルツリーを植える
(シャラ、ヤマボウシ、オリーブ、シラカシ、ケヤキなど)
- 生垣や低木をリズムを作って配置し、高さに気をつけて
フェンスや門扉、アクセントポールなどを組合せる
(ツゲ、サツキなど)